

■市の決算を「市民一人当たり」で考えると？

(2020年3月31日現在の市の人口29,860人で算出)

①市税の負担額は約11.5万円

▼市民税 46,346円 ▼固定資産税 54,471円  
 ▼その他 14,390円

②行政サービス額は約72.1万円

(一般会計歳出総額を人口で割って  
 行政サービス額を算出)

■市の借入金残高は全体で約361億円

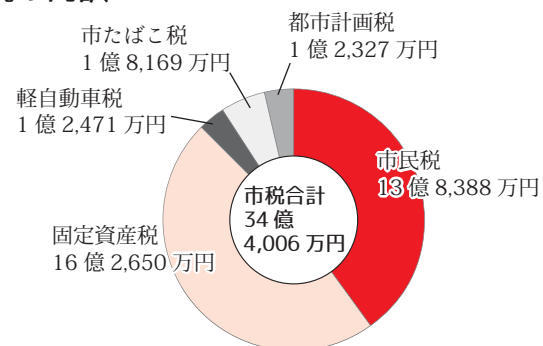
(地方交付税の補てんにより、実質約124億円)

道路や学校などの公共施設の整備には、一時的に多額のお金が必要となり、1年間の予算で賅うと他の事業ができなくなってしまいます。また、道路や学校はこれから長い間たくさんの方が利用する施設ですから、将来の市民の方にも平等に負担していただくことも、市債を活用する理由の一つです。

市債残高は、全会計で約361億200万円で、市民一人当たりになると約121万円(地方交付税措置額を除いた場合は、約42万円です。)

■市税決算額 34億4,006万円

市税の内訳



■市の貯金(基金)は全体で約46.5億円

公共施設の整備や市の借金の返済に充てる等のため、基金を積み立てています。令和元年度末基金残高は、全会計で46億4,595万円、前年度と比べて3億4,679万円減少しています。市民一人あたりになると約16万円になります。



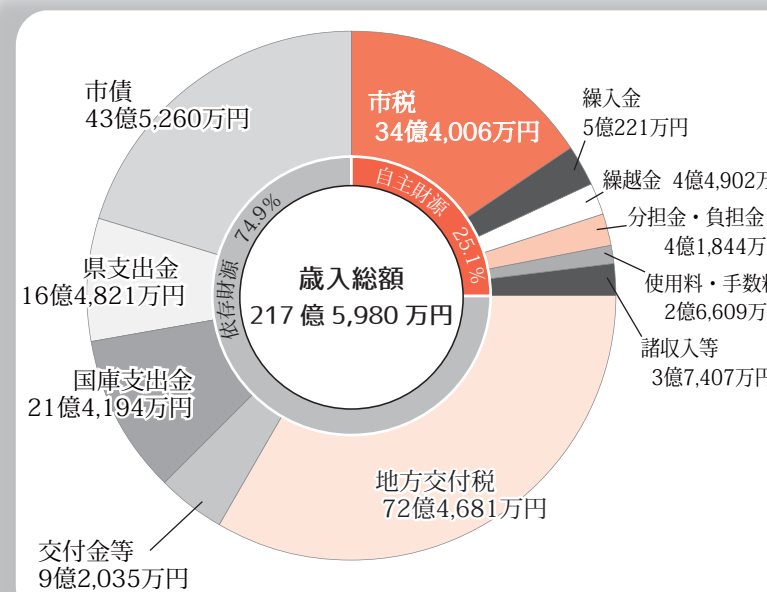
# 令和元年度 決算報告

決算とは、1年間(4月~翌年3月)の歳入(もらったお金)と歳出(使ったお金)をまとめたものです。

なお、令和元年度決算は、市議会の決算審査特別委員会で継続して審査されています。今後も健全な財政運営が持続できるよう取り組んでいきます。

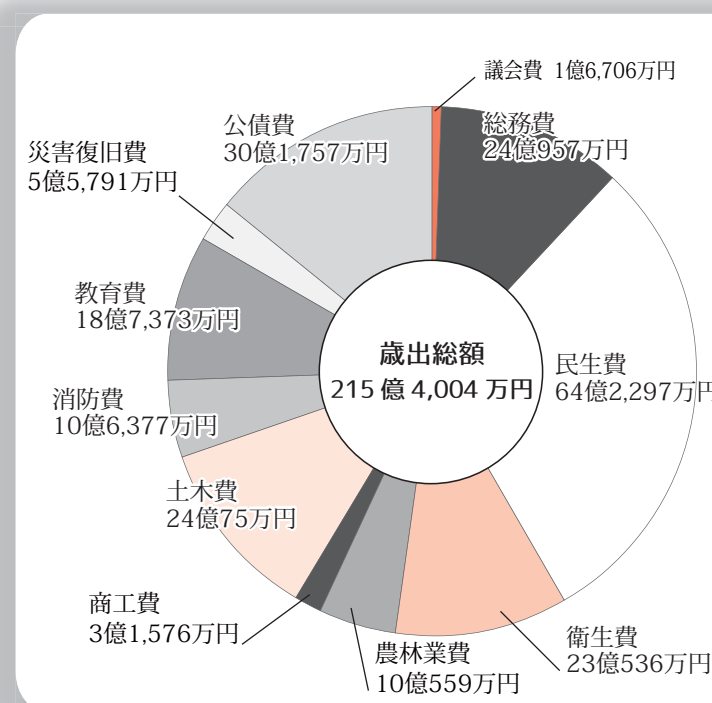
## 令和元年度 一般会計決算状況

歳入総額 217億5,980万円  
 歳出総額 215億4,004万円  
 実質収支 2億1,976万円の黒字決算



### 歳入(もらったお金)の内訳 前年度より約8億900万円増加

歳入の主なものは、市民税や固定資産税などの市税が34億4,006万円のほか、一定の行政サービスの水準を維持するため国から交付された地方交付税が72億4,681万円、特定の事業を行なうための財源の一部として、国と県から支出された国庫支出金や県支出金が37億9,015万円、その他の財源として国などから借り入れた市債が43億5,260万円等となりました。令和元年度は、国庫支出金や繰越金の増加により前年度に比べ3.9%増加となりました。



### 歳出(使ったお金)の内訳 前年度より約10億円増加

歳出では、市民ニーズに答えながらも更なる行財政運営の効率化に努めました。花咲寮の整備事業等の増加により民生費が約12億8,000万円、学校適正化事業等の増加により教育費が約4億7,000万円増加しました。

一方で基金費等の減少などにより総務費が約8億7,000万円減少、衛生センター解体工事終了等により、衛生費が約1億7,000万円減少しました。

## 市民一人当たりが1年間に受ける行政サービス額の使い道(主な内容)

<p>議会費 (市議会の運営) 5,595円</p>	<p>衛生費 (市民の健康増進、ごみ処理、生活環境等) 77,206円</p>	<p>商工費 (商工業、観光の振興) 10,575円</p>	<p>消防費 (消防団活動や消防施設整備等) 35,625円</p>
<p>総務費 (住民窓口や課税事務など市役所の運営) 80,696円</p>	<p>農林業費 (農業、林業などの振興) 33,677円</p>	<p>土木費 (道路・公園・住宅等の整備や都市計画等) 80,400円</p>	<p>教育費 (学校・生涯学習・スポーツや文化の振興等) 62,751円</p>
<p>民生費 (児童・高齢者・障害者の福祉等) 215,103円</p>	<p>公債費 (市の借入金の返済) 101,057円</p>	<p>災害復旧費 (災害復旧にかかる費用) 18,684円</p>	

(数値については、その積み上げの合計と一致しない場合があります)